

事業報告

平成29年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ①

平成29年7月8日（土）～9日（日）

【対 象】幼児と保護者

【場 所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用して、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供するとともに、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時						11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
7月8日（土）	10:40～11:00 受付					開 会 式	昼 食	運動遊び 「体を使って、いっ ぱい遊ぼう」 プレイホール ↓ 冒険の森				タ ベ の つ ど い	入 浴	夕 食	(親) 講義 (幼児) 絵本読み 聞かせ		就 寝	
時	6	7	8	9	10	11	12	13	14									
7月9日（日）	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	荷 物 整 理	清 掃 確 認	親 子 運 動 遊 び		親 子 で 料 理 に 挑 戦 ・ビーフシチュー ・パン ・バター	閉 会 式	14:20 解散								

～参加者～

10 家族（大人：13 名，幼児：11 名） 計：24 名

（長野県，東京都）

～活動トピックス～

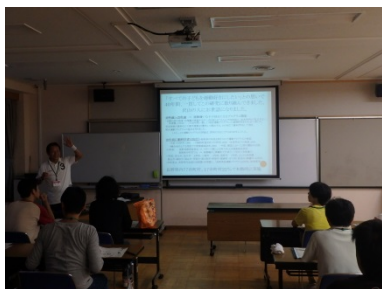
活動Ⅰ 運動遊び

「体を使っていっぱい遊ぼう」

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

柳澤先生の指導の下，まずはプレイホールで幼児が運動遊びを行った。次にプレイホールでの動きを屋外で応用するために「冒険の森」へ移動した。「懸垂力」「支持力」「跳躍力」を身につけるために「コアラ」「サル」「クマ」「ウサギ」の4種類の動物になりきって，楽しみながら運動をしていた。





活動Ⅱ 講義（親対象）

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

「親子の絆づくりは 10 歳まで」と題して、親向けの講義を柳澤先生にいただいた。最新の脳科学をもとに、運動することで神経が発達すること、神経の発達は 10 歳でピークに達することを学び、参加者の皆さんは幼児期の運動の大切さを実感したようだ。

活動Ⅱ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：絵本専門士 谷口和恵氏

谷口先生のキャンプのプログラムにマッチングさせた絵本の選択と工夫された読み方とで、幼児たちは時間のたつのも忘れて読み聞かせに夢中になっていた。ボランティアにとっては、今後のボランティア活動に活かすことができるであろう。



活動Ⅲ 親子運動遊び

講師：松本短期大学名誉教授 柳澤秋孝氏

家庭でもできる親子運動遊びを柳澤先生からご指導いただいた。10 月と 1 月にも同じメンバーでキャンプがあるので、それまでに各家庭で最低でも週に 1 回の親子運動遊びをするようにとご指導をいただいた。

活動Ⅳ 親子で料理に挑戦

メニュー「ビーフシチュー」「パン」「バター」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

親子やグループで協力して野外調理を行った。まずは、パン生地をこねて発酵させ、ダッジオープンで焼いた。次にビーフシチューの食材を切ったり、鍋で煮たりした。最後にバターをペットボトルで作った。幼児もできることを分担し、ふだん家庭ではできない料理を体験することができた。



～参加者の声～

- ・今の時期が子どもの人生においてすごく大切な時期だということが、よくわかった。
- ・運動遊びをしている時の我が子の表情が、今までに見たことがないくらいうれしそうだった。
- ・柳澤先生の指導の良さを改めて感じた。
- ・家に帰ってからも親子運動遊びを続けていきたい。
- ・一緒に料理を作ることがふだんないので、今回体験できてよかった。
- ・パンもバターも思ったより簡単においしく作れたのでびっくりした。

～成果と課題～

- 今回初めて絵本専門士の方に読み聞かせをお願いしたが、子供達を飽きさせない様々な工夫が凝らされており、職員やボランティアにとってもよい体験となった。
- 主催事業の参加者だからといって特別扱いをすることなく、宿泊棟の掃除や野外炊飯の片づけも最後までしていただいた。自然の家の使い方を正しく知ってもらえたと思う。
- 3 人の講師の先生や自然の家の職員及びボランティアに対する良い評価の言葉をたくさんいただいた。
- キャンプファイヤーを子供と一緒に体験してみたいという意見が多かった。10 月のキャンプでは希望を実現できるように計画したい。

事業報告

平成29年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ②

平成29年10月14日(土)～15日(日)

【対 象】幼児と保護者

【場 所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用して、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供するとともに、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

主 催：独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

後 援：伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
10 月 14 日 (土)	10:40～11:00 受付	開 会 式	昼 食	ミクロ オリエンテーリング ネイチャービンゴ				タ ベ の つ ど い	入 浴	夕 食	キャン プ フ ァ イ ヤ ー	(親)ワ ー ク シ ョ ッ プ (子)絵 本 読 み 聞 かせ	就 寝
時	6	7	8	9	10	11	12	13	14				
10 月 15 日 (日)	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	荷 物 整 理	清 掃 確 認	親 子 運 動 遊 び		親 子 で 料 理 に 挑 戦 ・カレーライス ・鶏の手羽先		閉 会 式	14:20 解散		

～参加者～

12家族(大人：15名、幼児：15名) 計：30名

(長野県、愛知県、東京都)



～活動トピックス～

活動Ⅰ ミクロアドベンチャー&ネイチャービンゴ

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

前日の雨天で野外での活動ができなかったため、室内でのミクロアドベンチャーを実施した。建物内のある小さな一部分を写真に写してある見本を見て、その場所を探して同じ写真を撮影するという活動。大人の考えとは裏腹に、子供達はいとも簡単に答えを見つけていた。その後、天候が回復したので、野外でネイチャービンゴを体験した。



活動Ⅱ キャンプファイヤー

講師：信州大学経済学部教授 古屋顯一氏・ボランティア

天候が回復したため、参加者の皆さんが熱望していたキャンプファイヤーを行うことができた。古屋先生の御指導の下、ボランティアが進行し、親子で歌やゲームを楽しんだ。参加者も職員もボランティアも、みんなの心が一つになった瞬間であった。



活動Ⅲ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：ボランティア

第 1 回のキャンプで絵本専門士の谷口先生の読み聞かせを学んだボランティアが、この日の読み聞かせを行った。子供達は、絵本に夢中になり、キャンプファイヤーで高揚した気持ちをクールダウンすることができた。

活動Ⅳ ワークショップ（保護者対象）

講師：信州大学経済学部教授 古屋顯一氏

「よかったこと探し」と題して親向けのワークショップを行った。キャンプ 1 日目の中で、我が子の良かった点ともう少しこうしてほしい点という点を付箋に書き出し、一人一人がグループの中で発表した。「他の家族と意見交換ができてよかった」という感想が多かった。



活動Ⅴ 親子運動遊び

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

第 1 回で松本短期大学名誉教授の柳澤秋孝先生より御指導いただいた内容を復習した。3 か月経過して子どもたちの動きがどのように変容したかを保護者に観察してもらった。前回より成長した子供達の姿を見ることができた。

活動Ⅵ 親子で料理に挑戦 メニュー「カレーライス」「手羽先ロースト」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

今回は野外調理の定番である「カレーライス」とダッチオーブンを使った「鶏の手羽先ロースト」に挑戦した。鶏の手羽先は出来上がった瞬間の見た目の豪華さに感動していた。



～参加者の声～

- ・親子ではなかなか体験できないキャンプファイヤーを行うことができて、本当にうれしかった。
- ・マイクロアドベンチャーはシナリオもあり、グループで考えながら行うことができたので楽しかった。施設内でも十分楽しめた。
- ・初めてのダッチオーブン体験が楽しかった。子供が積極的に食器を運んだり調理したりする姿に成長を感じた。

～成果と課題～

- キャンプファイヤーは、ボランティアの活躍により大変好評だった。参加者の皆さんが熱望しているプログラムなので、来年度も最低 1 回は取り入れるとよい。
- 参加した親子同士の交流が深まってきて、「キャンプ以外で集まる機会があるとよい」という感想があった。第 3 回でこの機運を高める工夫をしていきたい。
- 前日と当日の天候不順からアドベンチャーハイクを中止したが、参加者の感想でも「やりたかった」という意見が多かったため、ハイクの一部でも行えるとよかった。

事業報告

平成29年度 教育事業

ログちゃんアドベンチャーキャンプ③

平成30年1月20日（土）～21日（日）

【対 象】幼児と保護者

【場 所】国立信州高遠青少年自然の家

～趣旨～

自然を活用して、親子での運動遊びを通して、幼児の運動能力の向上と親子の絆を深め、親が子供に対して積極的に関わる子育て支援の機会を提供するとともに、参加した親子同士の交流を図る。

～主催～

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立信州高遠青少年自然の家

～後援～

伊那市・伊那市教育委員会

～活動日程～

時		11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
一日目	10:45～11:00 受付	開 会 式	昼 食	松ぼっくり クラフト アイスクリーム作り				タ ベ の つ ど い	入 浴	夕 食	キ ャ ン ド ル フ ア イ ヤ ー	（親） ワーク ショップ （子） 絵本読み 聞かせ	就 寝
時	6	7	8	9	10	11	12	13	14				
二日目	起 床	朝 の つ ど い	朝 食	荷 物 整 理	清 掃 確 認	親 子 運 動 遊 び	親 子 で 料 理 に 挑 戦 ・ほうとう ・おにぎり	閉 会 式	14:20 解散				

～参加者～

10家族（大人12名、小学生3名、幼児11名） 計26名
（長野県、愛知県）

～活動トピックス～

活動Ⅰ 松ぼっくりクラフト&アイスクリーム作り

講師：信州高遠青少年自然の家 職員

「雪まつり」を行う予定だったが、雪がないので「松ぼっくりクラフト」と「アイスクリーム作り」を行った。「松ぼっくりクラフト」は、親子でじっくりと時間をかけて工作に集中できた。「アイスクリーム作り」は、固めるために親子で協力してかきまぜ、おいしいアイスクリームが出来上がり皆満足していた。



活動Ⅱ キャンドルファイヤー

講師：ボランティア

ろうそくのほのかな明かりのもと、ボランティアが進行し、親子で歌やゲームを楽しんだ。参加者も職員もボランティアも、みんなの心が一つになった瞬間であった。

活動Ⅲ 絵本の読み聞かせ（幼児対象）

講師：ボランティア

第1回のキャンプで絵本専門士の谷口先生の読み聞かせを学んだボランティアが、この日の読み聞かせを行った。子ども達は、絵本に夢中になり、キャンドルファイヤーで高揚した気持ちをクールダウンすることができた。



活動Ⅲ ワークショップ（保護者対象）

講師：松本短期大学 名誉教授 柳澤秋孝氏

「親子運動遊びについて」と題して親向けのワークショップを行った。第1回のキャンプでも「親子の絆づくりは10歳まで」と題して話を聞いていたので、その後の約半年の間の我が子の変容について意見を交換した。どの子ども運動遊びに興味を持つようになり、できることが増えたという意見が多かった。

活動Ⅳ 親子運動遊び

講師：松本短期大学名誉教授
柳澤秋孝氏

第1回で柳澤先生より御指導いただいた内容を復習した。6か月経過して子どもたちの動きがどのように変容したかを保護者に観察してもらった。また、跳び箱と鉄棒を用意して、懸垂力と支持力がどのように生かせるかを検証した。前回より成長した子ども達の姿を見ることができた。



活動Ⅴ 親子で料理に挑戦 メニュー「ほうとう」「おにぎり」

講師：信州高遠青少年自然の家 職員・ボランティア

今回のメニューは、温かい料理として「ほうとう」と幼児でも作ることのできる「おにぎり」にした。ほうとうは簡単に作ることができ、しかも体が温まるので好評であった。おにぎりは、子どもたちが作ってくれたのでおいしく感じた。

～参加者の声～

- ・子どもは「工作がとても楽しかった」と喜んでいて。自由に思い思いにつくらせていただけたことがよかった。
- ・キャンドルファイヤーでは、ボランティアの皆さんのはつらつとした進捗に子どもたちはずっと引き込まれ楽しんでいた。
- ・親子運動遊びでは、柳澤先生の助言を聞けるので確認しながら運動遊びをすることができ、半年の間の我が子の成長を感じることができた。

～成果と課題～

- 親子で工作や調理をするという時間は、ふだんじっくり我が子と向き合う時間の少ない親にとって貴重な時間となり、キャンプに参加した意義を感じていただけた。
- 参加した保護者の方から「楽しくためになるキャンプに参加できてよかった」という感想をたくさんいただいた。親子での運動をすすめる事業の必要性を感じた。
- 4年目の事業であるが、年々応募者が減ってきている。全3回に参加することが難しい家庭があるとの意見もあったので、同じプログラムを違う参加者対象に3回実施するなど実施方法を検討したい。